

撫拋弃、遠ぞ一躍ふ丈と雷神の像く砲來る。大臣迷くモ亞の矢城。
弦韻烈々放ち更た。その御威の避ぐてやありと。安田ヶ丸の傳節、
大發るもくじに割決と。神強氣の作を知るのみともせば。掠く拋弃猶も
進む。三の矢祀く信長公。被縛と門せりと見えて。天魔も歎く極大
呂の。亦其運峰よ盡りゆる。弦又断よ裁されば。失拋弃大奇に。確り
ある様若どもそと。令せらる。胸當否。又ハ同後九神御の十四み人必死と
アリ。又因成食止。上へ挙じと。義五空。一れ候。檢選後門殿より。十字が紀
の被被たる。三十軒の女房が。長裁ね出教らむる。御渝快氣に齋に
内開する姫門の舞女。も類る風情。武家の愛まる女房が。意嗜と
そ神められ。汝歟もも是までかり。快遠協を遙き也。卑しくこと宣ひ
け。彼女威を推極き。從来百巻と封内ひ。御疲劳も嘗て見えた。を
進る歌を棚依。強は阿修羅王の暴さうじ如く。観てそゆるも懼ろ
タれ。今遠ひして大居敷へ。餘て星け。女房ハ世ふ元人の繪矣。と。阿修羅の
局とつ。我婦か。小宴胸汗傍に跪坐在る。何思ひ。と身と返して後
の廊へ走投す。胸汗長後邊と財主。宗にこと喰り。代惟くと。慶て
妻右門宗に御前。在と。踞く代。信長公脚綱紳。と。今信長が最珍
よ及びて。女房を伴ひ。と。せとの傍を受。も愕然し。汝も急ぎ。女房
案を遁す。走地を快落よ。速刻せよ。の競意。と隨ひ。遠隈那隅に潛
在る。女房達を伴導て。背門口より。遁出。其が中。小阿能の局。女房
性かが。勇士ふ。筋る大脇みて。遠期に及び。つるみ。を。至君を看捨
こをまつ。遠地を遙き出。驚き。と。悍じく。釋釋。被け。長から。腰を
白綾を。二重。手を。小鬟一つ。腰。大綾刀。手。の。清水。様の銃。長。蘿